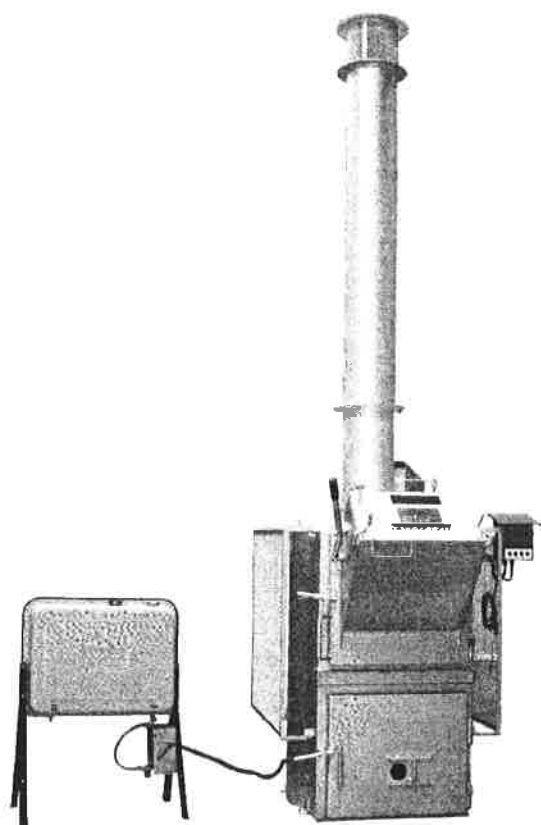




焼却炉（ダイオキシン対策型）

CI295LA
CI495LA

取扱説明書
(バーナーは別冊)



イラスト：CI495LA

このたびは、本製品をお買い上げいただきありがとうございます。
ご使用前に必ずこの取扱説明書を最後までよくお読みいただき、使用上の注意事項、
本機の能力、使用方法など十分ご理解のうえで、正しく安全にご使用くださるよう
お願いいたします。また、この取扱説明書は大切にお手元に保管してください。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品を末永くご愛用いただくために、この取扱説明書を熟読の上ご使用くださいますようお願いいたします。また、取扱説明書は大切にお手元に保管してください。

なお、バーナーにつきましては、別冊のバーナー取扱説明書をお読みください。

製品の向上には絶えず努力を傾けております。従いまして製品改良のため、仕様など予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。




目次

はじめに	1
1. 安全にお使いいただくために	2~3
2. 仕様	4
3. 外形寸法及び各部の名称	5~6
4. 設置方法と組立方法	
1) 準備	7
2) 設置方法	8
3) 組立方法	9~11
5. 運転方法	
1) 燃料タンクに白灯油を入れる	12
2) 着火手順	12~20
3) 燃焼温度の確認	21
4) 消火手順	21~22
6. 保守・点検	22
7. 故障かなと思ったら 現象とその対応	23


1. 安全にお使いいただくために

安全に効率よくご使用いただくために、ご使用前に本取扱説明書の安全に関する注意事項をよくお読みください。
使用上の注意事項、本機的能力、使用方法など十分ご理解の上で、正しく安全にご使用くださいますようお願いいたします。

安全に関する表示について（安全に関する注意事項）
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。
これらは安全上、特に重要な項目です。
必ずお読みいただき指示に従って正しく使用してください。

-  **危険** 指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの。
-  **警告** 指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの。
-  **注意** 指示に従わないと、傷害を受ける可能性のあるもの。

基本的注意事項 安全のためにこれらの注意事項を守ってください。

 警 告
<p>過労・飲酒時の作業禁止</p> <ul style="list-style-type: none">• 過労や睡眠不足で体調が悪いときや、飲酒時・薬服用時の作業は、注意力が散漫になり、事故につながります。• 体調が悪いときや、飲酒・薬物飲用時の作業は行わないでください。
<p>きちんとした服装・保護具の着用</p> <ul style="list-style-type: none">• だぶだぶの服・装飾品など機械部品に引っかかる可能性のあるもの。また、油などの付着した作業着は引火しやすいので着用しないでください。
<p>改造はしないでください。改造は、安全上問題になることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">• 改造に起因する人身事故や故障については、責任を負いかねます。

⚠ 危険

危険物の焼却炉への投入禁止

- 引火性の高い物…ガソリン、シンナー、ベンゼン、エチルアルコール、可燃性粉塵など。
- 爆発が起こる可能性がある物…スプレー缶、火薬、密閉された缶など。
- 毒物…水銀、ヒ素、黄リンなど。
- 劇物…クレゾール、トルエン、硝酸など。
- 上記以外にも危険性のある物。

⚠ 警告

本機の故障や近隣の方々に御迷惑をおかけすることを避けるために、下記の使用方法を必ずお守りください。

- 絶対に投入口、灰出し扉を開けた状態で焼却しないでください。
- 絶対に塩素系化合物は、焼却しないでください。
- 1時間あたりの焼却能力以上は、焼却物を投入しないでください。
- プラスチック類は、焼却しないでください。

⚠ 注意

- 焼却中は、二次燃焼バーナー、燃焼スイッチ及びブロウスイッチを必ず『ON』の状態で使用してください。
(バーナー部の故障原因となります。)
- 使用前に燃料タンクの残量を確認し、不足している場合は適正な量を補給してください。
燃料タンクは出来るだけ満タンにしてください。
(燃料切れが起きるとポンプの破損の原因となります。)
- 使用状況により、耐火セメント表面の薄皮がはがれた様になることがありますが、異常ではありませんのでそのままご使用ください。
- 煙突傘の金網が目詰まりしているとき、使用直後は熱くなっているため、常温まで冷ました状態で金網を掃除又は交換してください。
- 使用状況により煙突及び、二次燃焼室の表面アルミが高温により溶ける事が有りますが性能には影響は有りませんので御安心ください。

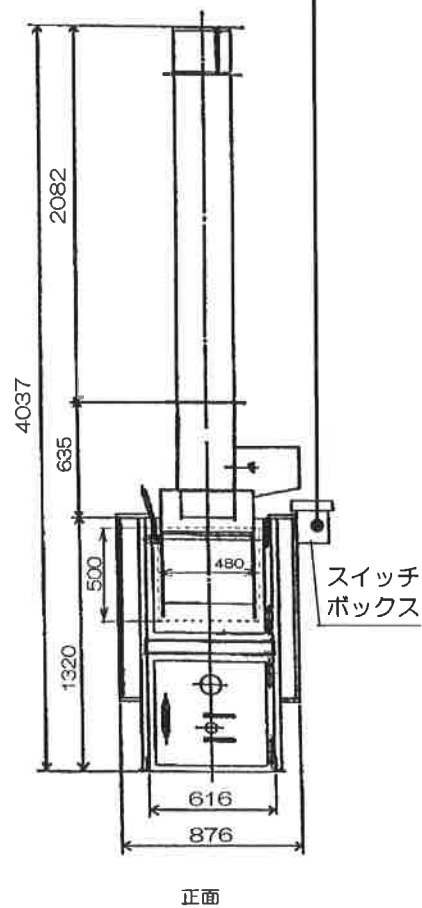
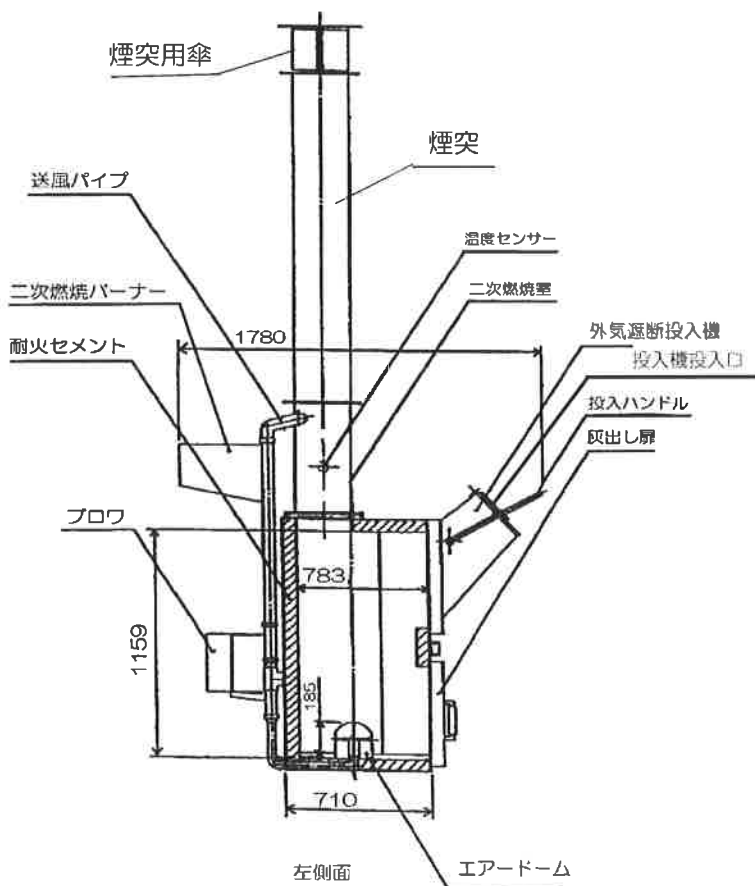
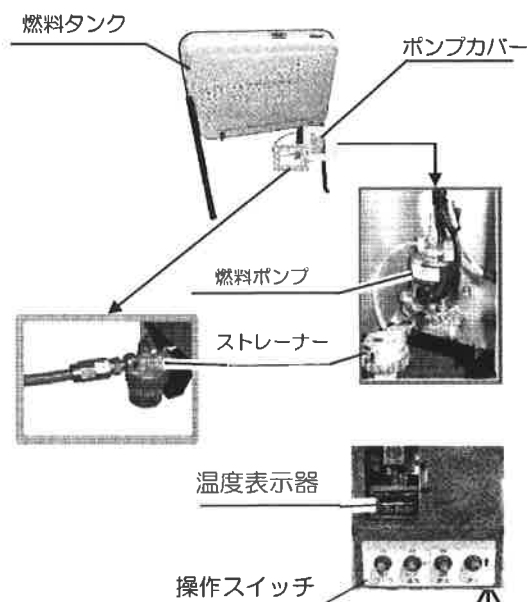
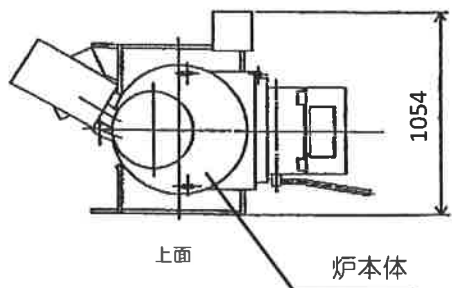
2. 仕様

型式	CI295LA	CI495LA
焼却能力	29.5kg/h	49.5kg/h
全幅	1,054mm	1,264mm
全奥行	1,780mm	1,930mm
全高	4,037mm (傘を含む)	4,037mm (傘を含む)
投入口寸法 (幅×高さ)	480×500mm	600×500mm
投入機投入口寸法 (幅×高さ)	407×260mm	527×260mm
本体質量 (燃料タンクを除く)	850kg	1150kg
ロストル面積	0.29㎡	0.49㎡
一次炉内容積	0.34㎡	0.57㎡
(一次炉内寸法)	(直径0.54×高1.15m)	(直径0.72×高1.15m)
使用燃料	白灯油	白灯油
燃料タンク容量	90L	90L
燃料消費量	4~6L/h	4~6L/h
電源	AC100V / 15A	AC100V / 15A
バーナ+ブロー出力	330W	330W

※1：ロストル面積とは、燃焼室内の全火床（ロストル部分を含む）面積を表しています。

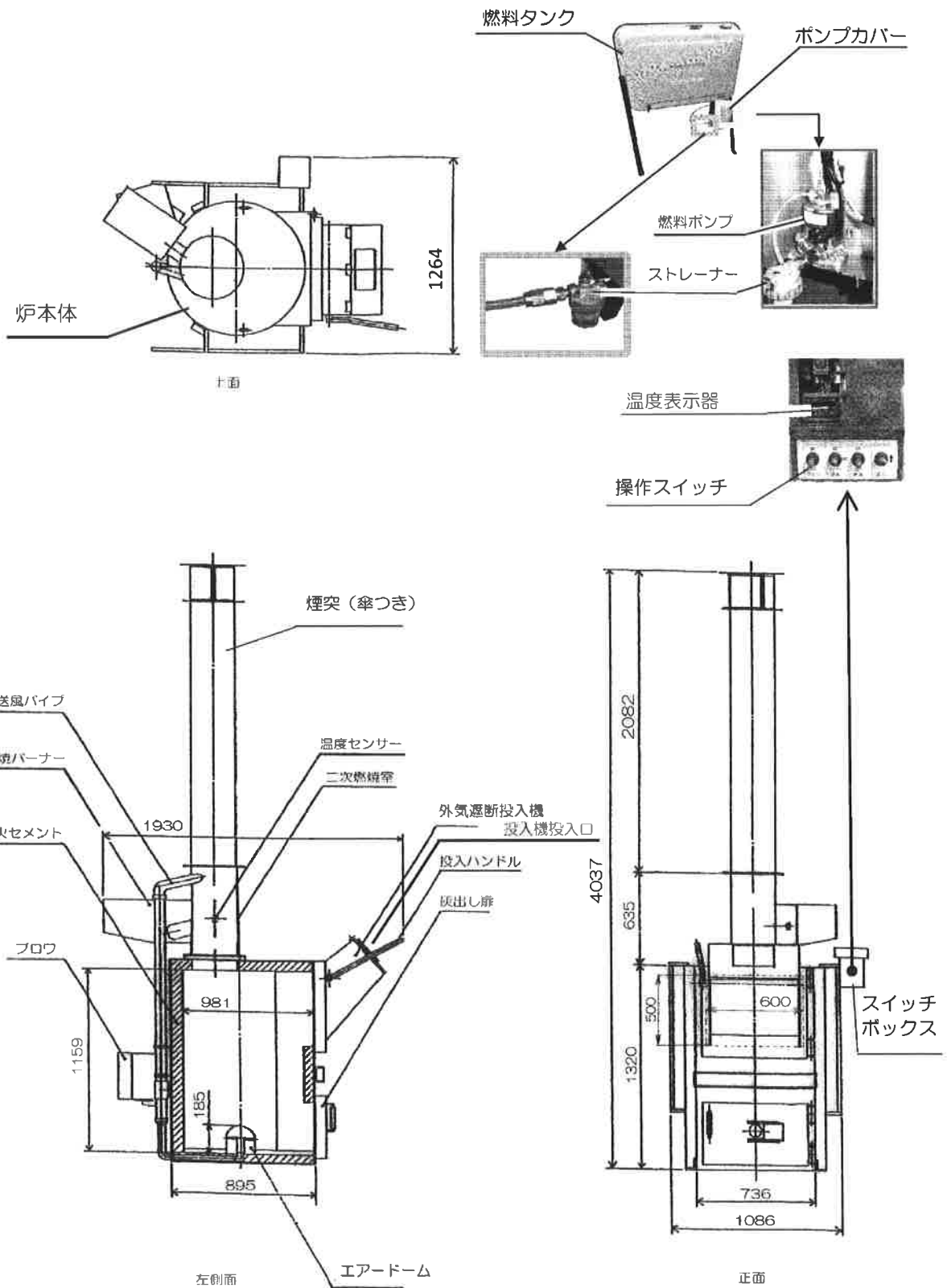
3. 外形寸法及び各部の名称 ※CI295LA

単位 (mm)



3. 外形寸法及び各部の名称
 ※CI495LA

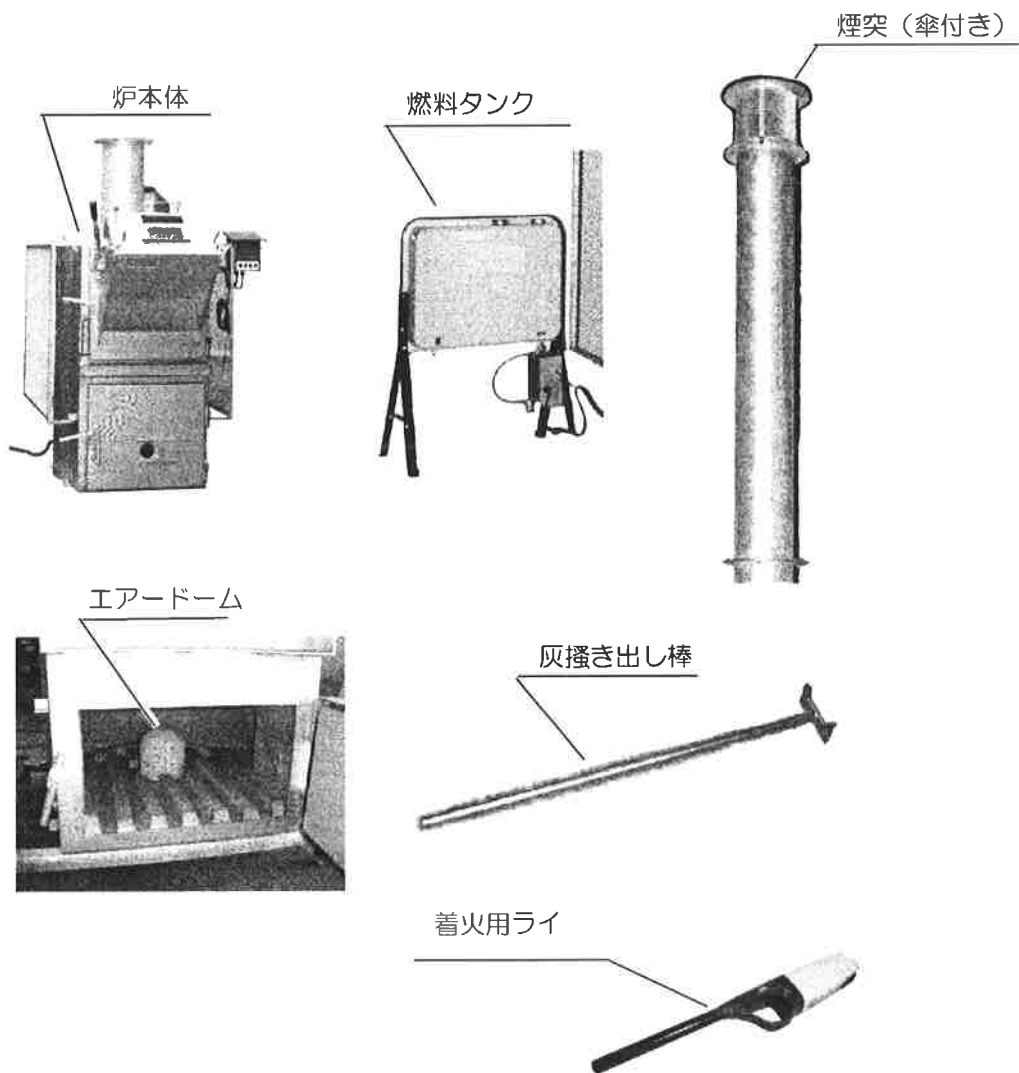
単位 (mm)



4. 設置方法と組立方法

1) 準備

はじめに、ご購入いただきました焼却炉の部品がすべて揃っていることを、ご確認ください。



(1) 炉本体	1
(2) 燃料タンク	1
(3) 煙 突 (傘付き)	1
(4) 灰掻き出し棒	1
(5) エアードーム	1
(6) 着火用ライター	1

2) 設置方法

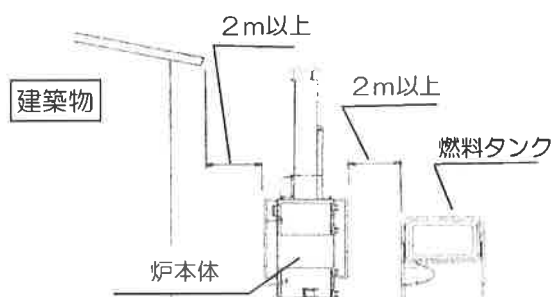
⚠ 危険

焼却炉と建築物との保有距離

消防法では焼却炉（釜戸・炉等）の設置は火災防止上、建築物から安全な距離を保つことが定められております。

また、各地方公共団体が独自に安全な距離を定めている場合もありますので確認してください。

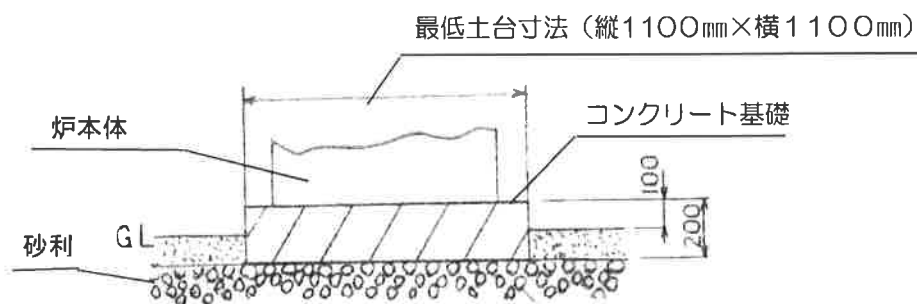
（定められている保有距離が下記以上の場合は、そちらを参考にしてください。）



炉本体と建築物等及び燃料タンクの保有距離は2m以上としてください。

ただし、前方は3m以上の保有距離で設置してください。

防火壁を設ける場合もその距離を保ち、通風のため四方を塞ぐ事は絶対にしないでください。また、必ず屋外に設置してください。屋根の設置もおやめください。設置場所が軟弱な場合は、下図を参考に基礎を作ってください。



設置は平坦な場所を選び、本体と燃料タンクは電気ケーブルと燃料パイプが無理なく接続できる範囲で位置を決めてください。

（必ず2m以上距離を保ってください。）

⚠ 危険

炉本体と燃料タンクは必ず2m以上距離を保ってください。

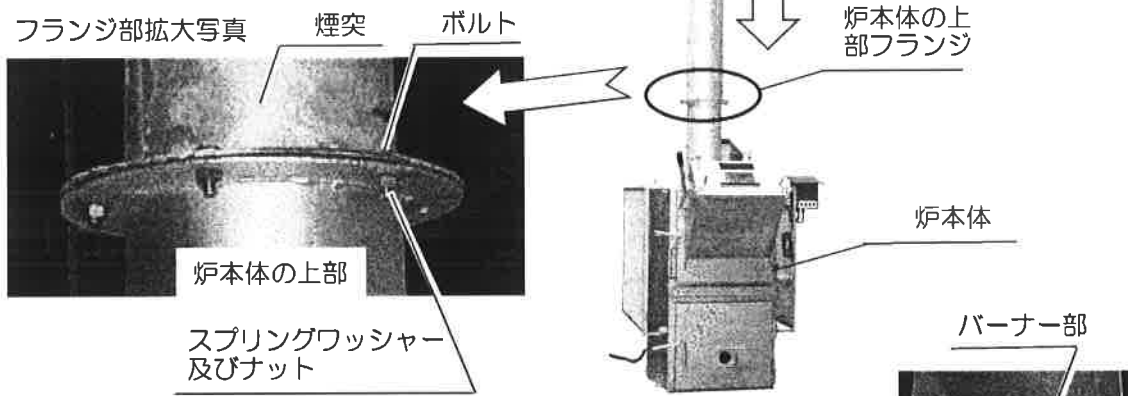
3) 組立方法

⚠ 注 意

組立作業に際しての注意事項

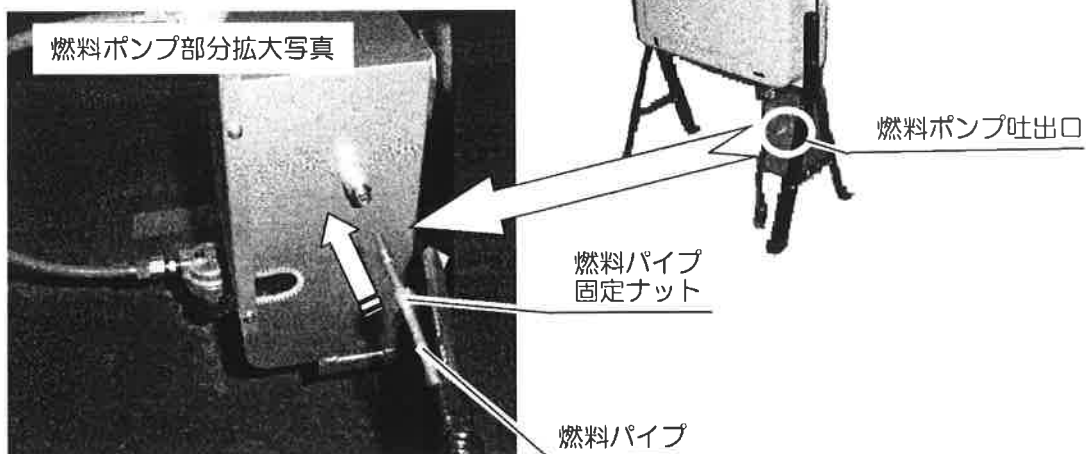
- 組立作業は必ず2人以上で行ってください。
- すべり止めの付いた保護手袋を使用してください。
- 吊り上げ作業は玉掛け及び移動式クレーン運転技能講習終了者が行ってください。
- 煙突を吊るすときはスリングベルト等で十分に固定してください。
- 吊る前にしっかり固定されているか試してから吊り上げてください。

- (1) 炉本体の上部のフランジ部分に組付けしている取付ボルト (M10x25)、スプリングワッシャー (M10用)、ナット (M10) を外し、上部のフランジ部と付属の煙突のフランジ部の6ヶ所の穴位置を合わせて取り付けてください。そのあと、最初に外した取付ボルト、スプリングワッシャー、ナットを使用し煙突を固定してください。



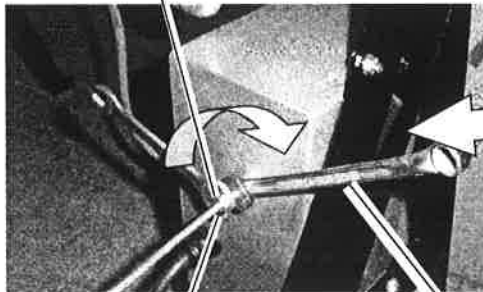
- (2) 燃料パイプの組付け

- ① バーナー部に取り付けている燃料パイプを燃料ポンプの吐出口に挿入してください。

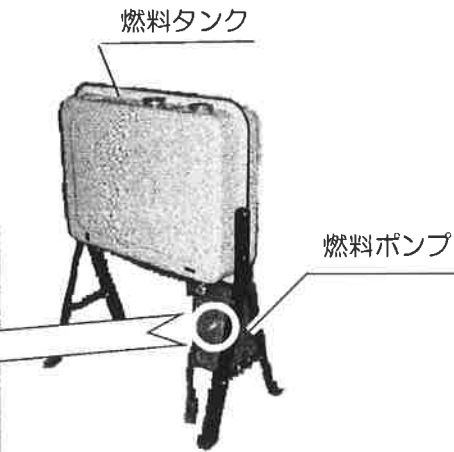


- ② 燃料パイプに取り付けられている固定ナットを右に回し固定してください。

スパナ (12mm)



六角ナット



吐出口のメネジと一緒に回らないようスパナ (12mm) を使用し押さえてください。

⚠ 注 意

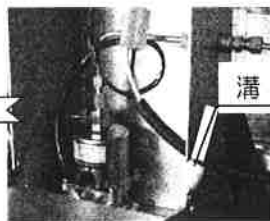
六角ナットで燃料パイプを固定するときには、締めすぎるとパイプが変形し燃料漏れの原因となります。六角ナットを手で回るところまで回したあと、スパナで約90°～130°の範囲で締め付けてください。

- (3) ポンプカバーを開き、電磁ポンプ側コネクターをバーナー側コネクターに差し込み接続固定しポンプカバーを閉じてください。
※コネクターは確実に差し込んでください。

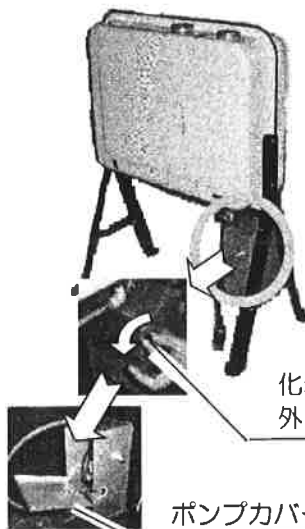
コネクターを差し込んでください。



バーナーからのケーブルをカバーの溝に入れてください。



溝



化粧ネジを外してください。

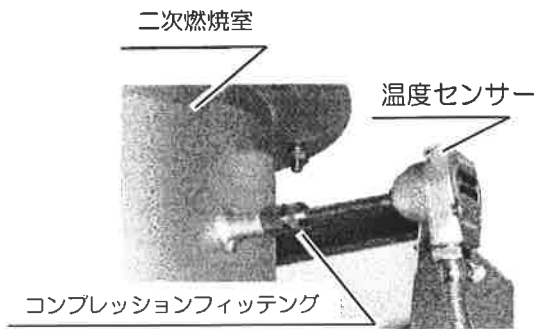
ポンプカバーを開いてください。

⚠ 警 告

- 燃料パイプのコネクターから燃料漏れが無いことを確認してください。
- 電気ケーブルは炉本体等の高温部に触れないようにしてください。
- 燃料タンクは、焼却炉本体より2m以上距離を保って設置してください。

(4) 温度センサーの組み付け・調整

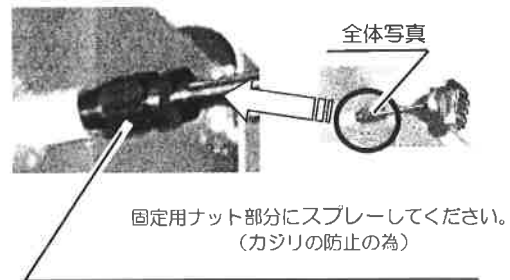
- ① 温度センサーをコンプレッションフィッティング（以後：フィッティング）に挿入してください。



⚠ 危険

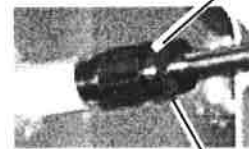
焼却炉が熱いときは、火傷や火災等のおそれがある為、中止してください。

- ② フィッティングのセンサー固定用ナット部分に浸透性潤滑剤をスプレーしてください。



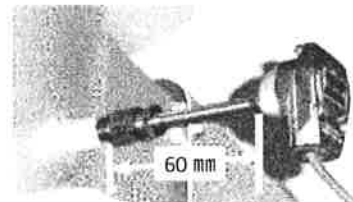
- ③ フィッティングの固定用ナットをお手持ちの17mmスパナ2本を使用し軽く緩めてください。
(温度センサーが軽く動く位に仮締めする。)

本体が緩まないようにスパナで固定してください。



固定用ナットを締めてください。

- (5) 温度センサーがフィッティングから60mmの距離になるように調整してください。調整したあと、(3)で緩めたフィッティングの固定用ナットは、温度センサーを手で軽く力を加えた時に動かない程度にしてください。



⚠ 注意

調整時に燃焼室側へ極端に近づけないよう注意してください。温度センサー破損の原因となります。

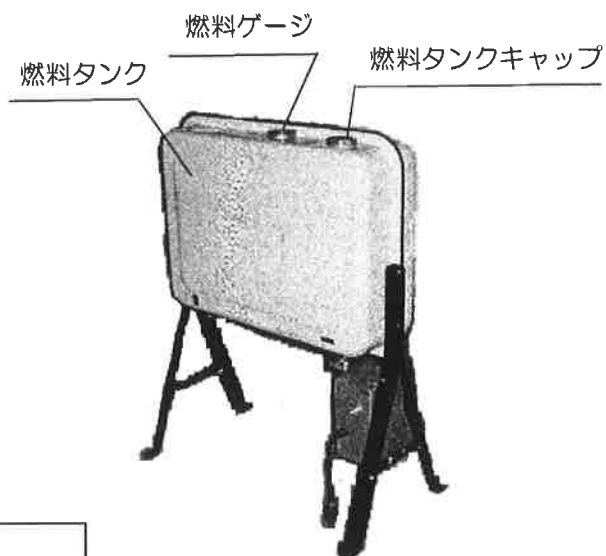
5. 運転方法

1) 燃料タンクに白灯油を入れる。

燃料タンクキャップを開け白灯油を入れてください。(タンク容量約90L)

- 運転中は燃料を切らさないように時々、燃料ゲージを確認してください。
- 不足している場合は、適宜補給してください。

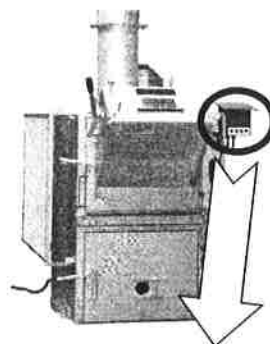
※ 燃料が無い状態で運転を行うと、燃料ポンプが破損しますのでご注意ください。



⚠ 警告

ガソリン・シンナー等使用禁止

燃料にガソリン・シンナー等の揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
引火して、爆発・火災の原因となり大変危険です。



2) 着火手順

(1) 焼却炉の電源を入れる。

焼却炉本体右側面にあるスイッチボックスの下から出ている電源プラグをコンセントに差し込みます。(AC100Vの電源)

※ この際に、操作スイッチが『OFF』になっていることを確認してください。



⚠ 注意

電源電圧は、100V±10V以内で使用してください。

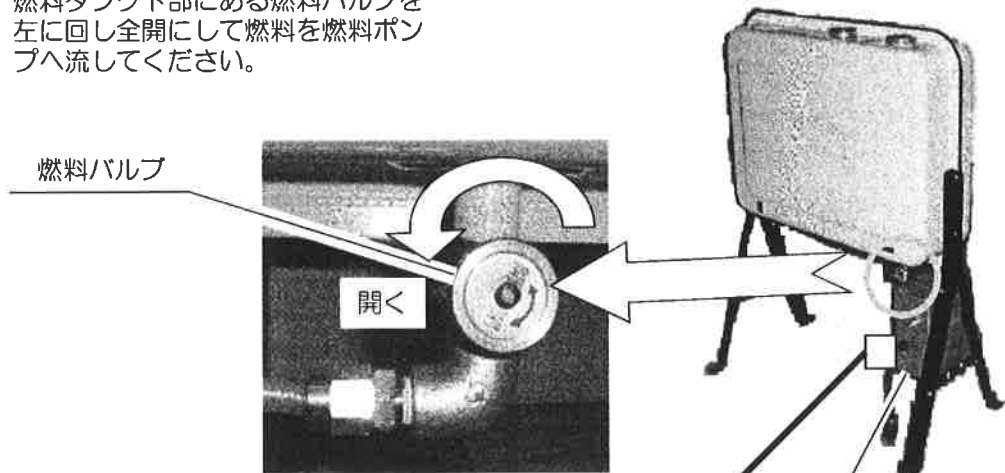
アダプターを外してください。

アースピン付き
コンセント

アダプターを
プラグに差し込み、
コンセントに差し込んでください。

(2) バーナーに点火し二次燃焼室を予熱する。※P5、6を参照してください。

- ① 燃料タンク下部にある燃料バルブを左に回し全開にして燃料を燃料ポンプへ流してください。



- ② ストレーナーに空気又は水分が混入していないか確認してください。

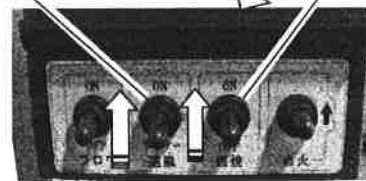


- (a) スイッチボックスの送風スイッチを『ON』にしてください。

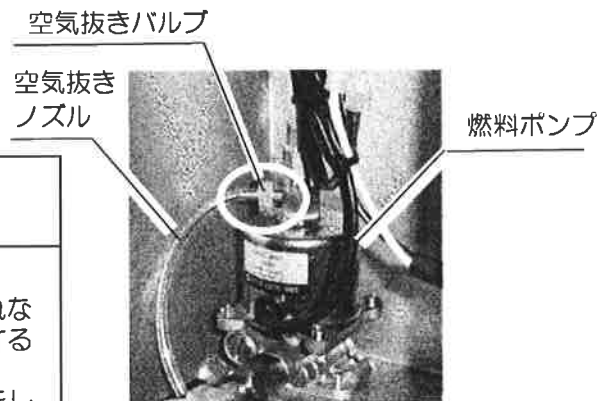
燃焼スイッチを『ON』にしてください。



燃料タンクの下にある空気抜きバルブを左に回して開き、空気抜きノズルから燃料が出るまで空気を抜いてください。



その後空気抜きバルブを閉じ、燃焼スイッチと送風スイッチを『OFF』にしてください。



警告

作業時に、こぼれた燃料は布きれなどでふき取ってください。放置すると火災の原因となります。
燃料が無い状態で5分以上運転をしないでください。

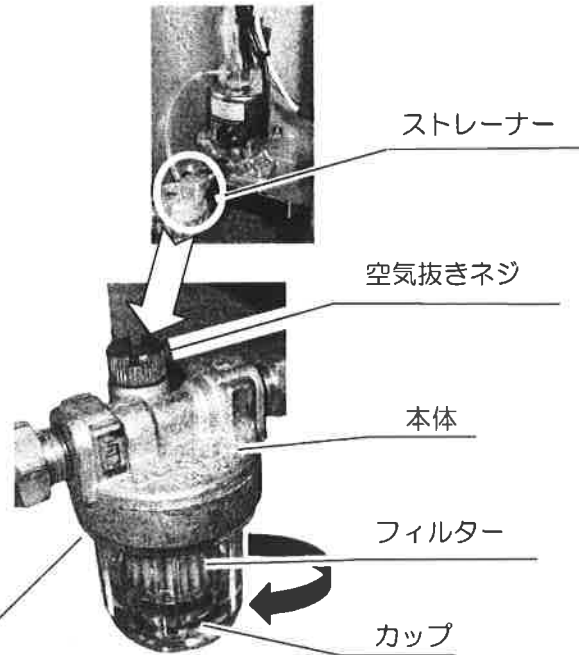
- (b) 燃料ポンプの前に組付けされたストレーナーのカップを外しストレーナー内の水分を除去し、フィルターを掃除してください。
(バーナー取扱説明書のP8を参照)

ストレーナー内に空気がたまっている時は、+ドライバー (No.2) を使用して空気抜きネジを緩め空気を抜いてください。

空気が抜けたことを確認し、空気抜きネジを締め付けてください。

※ストレーナーのカップの外し方
カップを右に回し緩めて、カップを外してください。

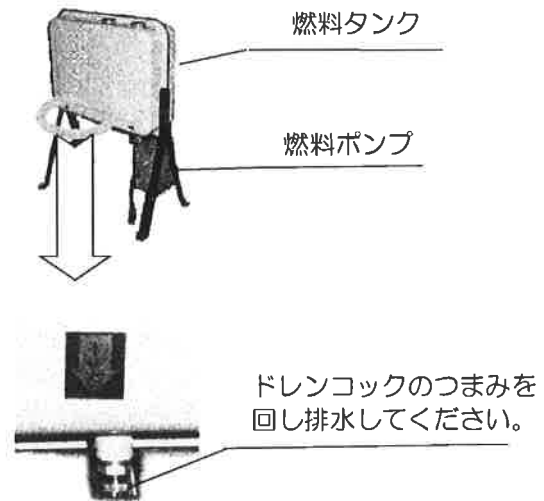
※カップ取扱の注意点
カップと本体との間に、漏れ止め部品の『Oリング』があります。
キズや破損のないように分解・組み付けてください。



- (c) 燃料タンク内の水分や異物等を排出してください。

燃料タンク下部にあるドレンコックを左に回し、水分や異物等を排出してください。

燃料タンクを設置した環境にもよりますが、約6ヶ月を目安に作業を行ってください。



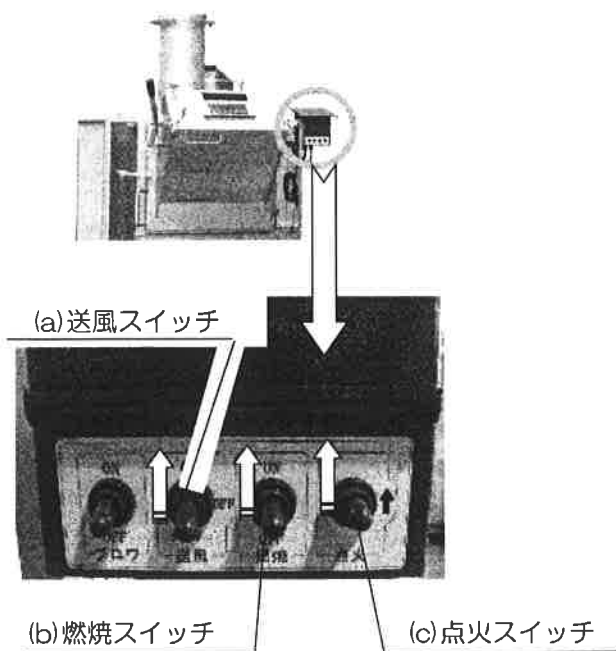
⚠ 注意

燃料タンクに水分が混入すると燃料ポンプの性能低下や、バーナーの燃焼不良原因となります。
また、燃料タンク内は、『空』にならないよう注意してください。

③ スイッチボックスの「送風」「燃焼」「点火」の各スイッチを操作しバーナーを着火してください。

- (a) 送風スイッチを『ON』にする。
- (b) 燃焼スイッチを『ON』にする。
- (c) 点火スイッチをバーナーに着火するまで上げる。

着火の確認は焼却炉背面に取り付けてあるバーナーののぞき窓より、炎が出ていることを確認してください。

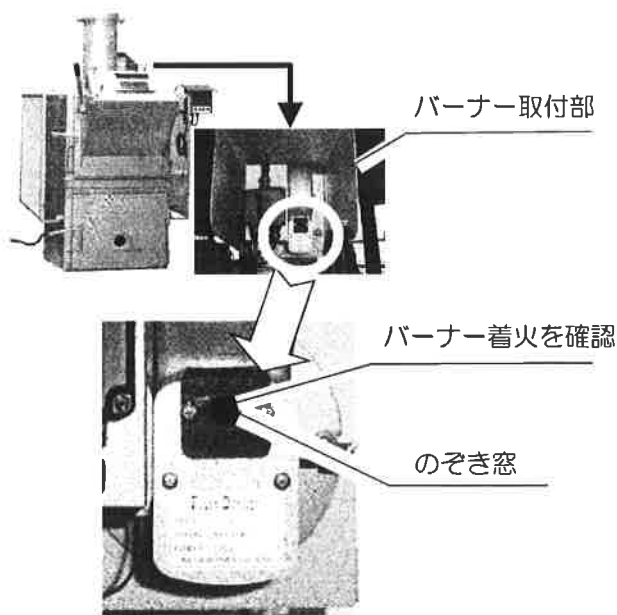


△ 注意

はじめてご使用になる際、燃焼スイッチを操作したあと燃料タンクからバーナーまで燃料が届くのに約2～3分間かかります。その間は、着火しない場合がありますのでご注意ください。また、バーナーが着火されている事を必ず確認してください。

△ 注意

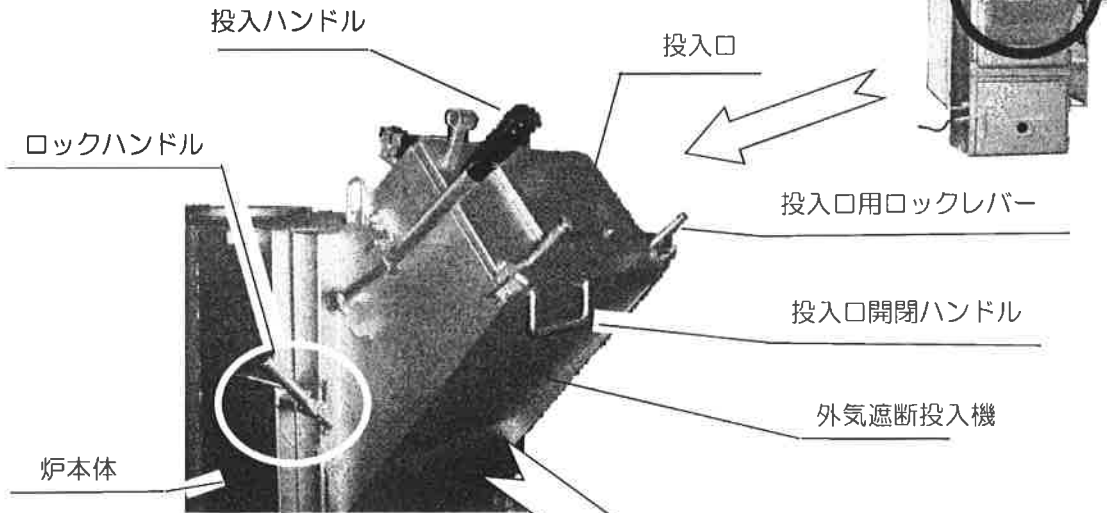
バーナーの送風スイッチが『OFF』の状態では焼却運転は、絶対に行わないでください。バーナー破損の原因となります。



(3) 投入扉を開き、炉内に焼却物を入れ着火してください。

投入扉の開閉

初回投入時、炉本体より焼却物（大型の焼却物）を投入する場合は、ロックハンドルを上げて解除します。



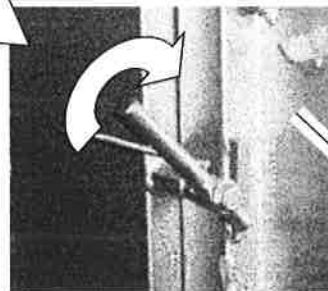
⚠ 注意

燃焼中この作業は行わないでください。

⚠ 危険

危険物の焼却炉へ投入禁止

- 引火性の高い物：ガソリン、シンナー、ベンゼン、エチルアルコール、可燃性粉じん等
- 爆発が起こる可能性がある物：スプレー缶、火薬、密閉された缶等
- 毒物：水銀、ヒ素、黄リン
- 劇物：クレゾール、トルエン、硝酸
- その他、上記以外にも危険性のある物

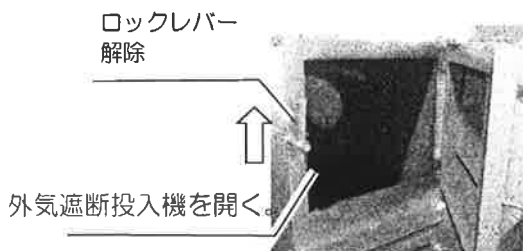


外気遮断投入機

① 投入扉本体の開閉

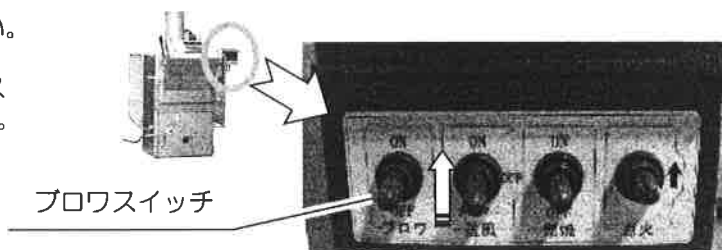
バーナー着火後、初回のみ焼却炉内に直接焼却物を投入する場合は、ロックレバーを上げて解除し、外気遮断投入機を開き、投入作業が終わりましたら外気遮断投入機を閉めてください。

プラスチック類は、投入しないでください。



② ブロフスイッチを入れてください。

炉内が温まったところでブロフスイッチを『ON』にしてください。



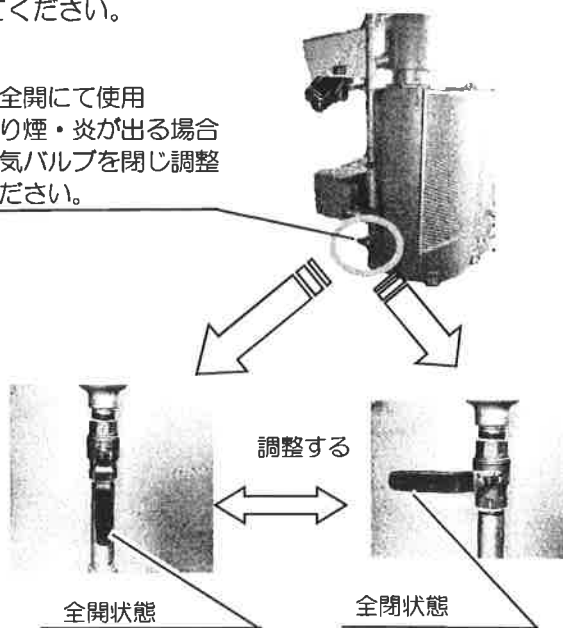
③ 煙突から煙が出る場合は、給気バルブを操作してください。

○ 煙・バイジンが多量に出る場合給気バルブを閉じてください。

○ 煙・バイジンが出ない場合は給気バルブを開いてください。

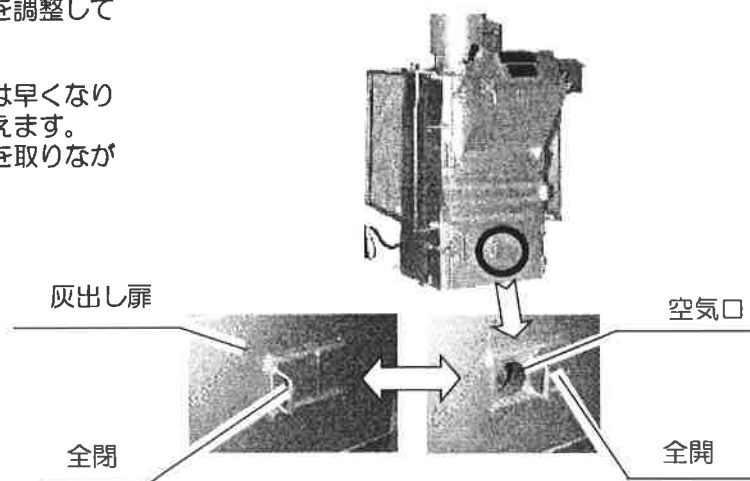
※ 出荷時は給気バルブは全開になっています。

通常は全開にて使用
煙突より煙・炎が出る場合
一次給気バルブを閉じ調整
してください。



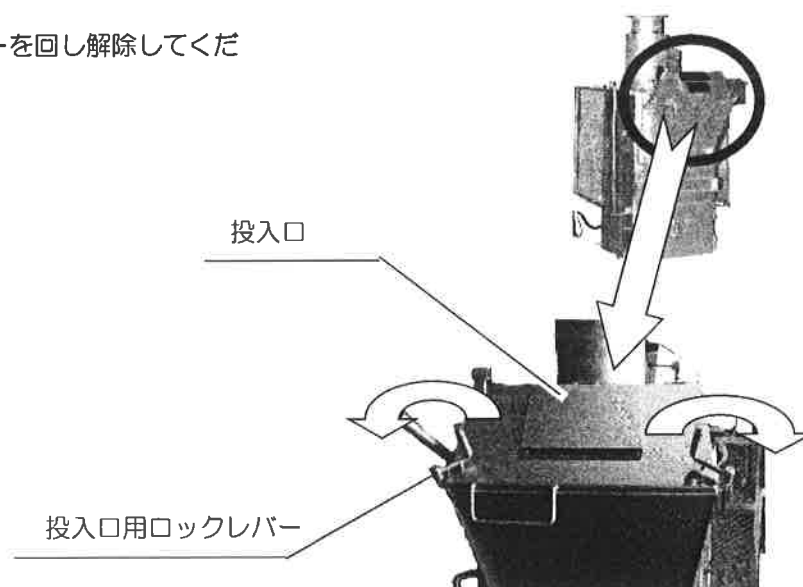
- ④ 煙突から煙・炎が出る場合は、煙・炎が出ない程度に、空気口の開き具合を調整してください。

空気口は大きく開くほど、燃焼は早くなりますが煙突から出る煙の量が増えます。煙・炎の出具合によりバランスを取りながら調整してください。



- (5) 投入機の投入口より、焼却物を投入してください。

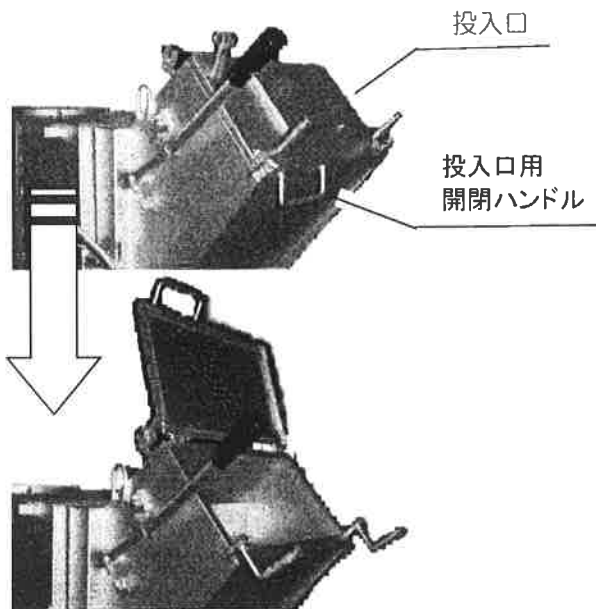
- ① 投入口用ロックレバーを回し解除してください。



- ② 投入口用開閉ハンドルを持ち上げ投入口扉を開けてください。

⚠ 注意

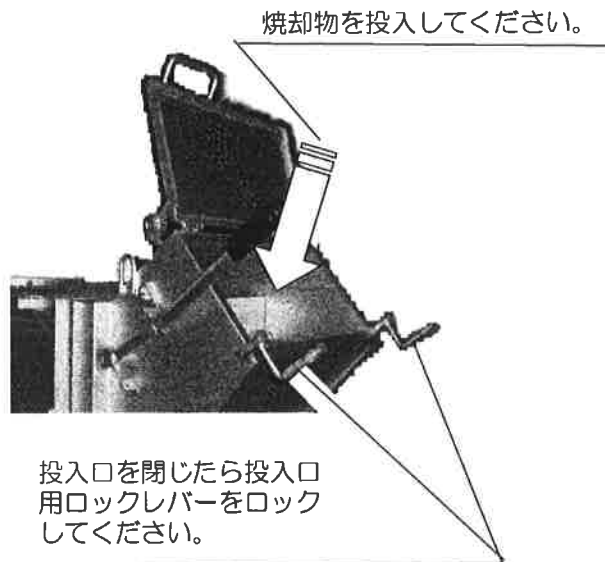
使い始め3日間位は1時間の焼却物投入量を焼却能力の半分に減らし、ならし運転を行ってください。
使い始めより、急激に炉内温度を上昇させると断熱材（キャスト）の脱水時の蒸気化が急激に起こり炉壁内に大きな蒸気圧が発生しそのエネルギーによって爆裂のような現象が起こり、炉壁を破損することがあります。



- ③ 焼却物を投入口より投入したら投入口扉を閉じ投入口用ロックレバーをロックしてください。

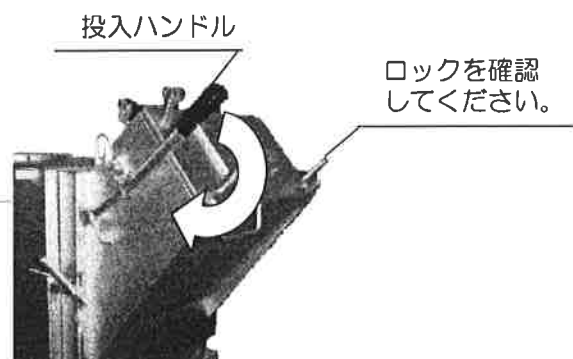
⚠ 警告

- 塩化ビニール製品は絶対に焼却しないでください。塩化水素の有毒ガスが発生するおそれがあります。
- スプレー缶等は絶対に焼却炉に入れないでください。爆発や火災の原因となるおそれがあります。
- 作業時、投入扉に指等を挟まないよう注意してください。
- 焼却中は投入機本体や灰出し扉等を開かないでください。
- 投入扉を閉じる時は、投入扉に焼却物を挟まないようにしてください。



- ④ 投入口用ロックレバーを確認後、投入ハンドルを下げる事で焼却物が炉内に投入されます。

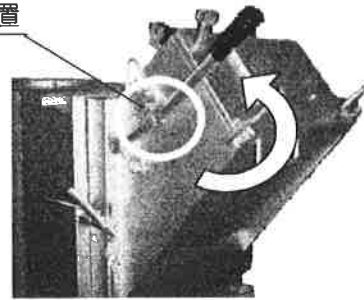
- ⑤ 焼却物を投入したら、投入ハンドルを固定位置まで上げてください。



警告

- 焼却中は、焼却炉本体の投入口は開けないでください。
急激に炉内に酸素が送り込まれると、炎が吹き出し、火傷をするおそれがあります。
- 焼却炉本体、煙突に手を触れないでください。
高温のため、火傷をするおそれがあります。
- 空気口を、必要以上に開けないでください。
空気口から炎が出て火傷や火災が発生するおそれがあります。

固定位置



3) 燃焼温度の確認

スイッチボックスの扉を開くと温度表示器と焼却作業終了後のバーナー冷却用の送風タイマーがあります。
温度指示計の温度
(800℃から900℃)を確認してください。

確認したあとは、扉を必ず閉じてください。
雨水等が内部に入り故障の原因となります。

電源を入れると表示を開始します。

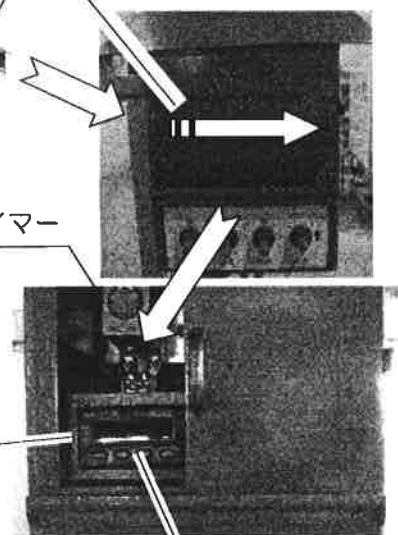
表示部の下にあるボタンは操作しないでください。
故障の原因となります。

スイッチボックス

扉を右にスライドして開いてください。



送風タイマー



温度表示器

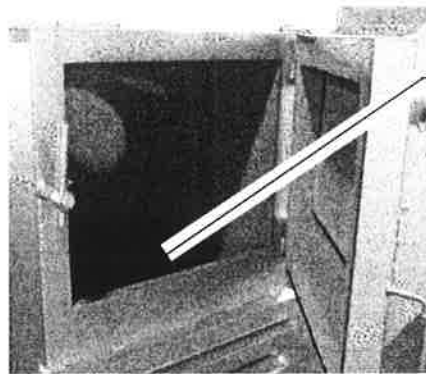
警告

- 雨天や積雪等の天候時は扉を開けないでください。
感電のおそれがあります。
- ボックス内はAC100Vの電気が流れていますのでボックス内には手を入れないように注意してください。
感電のおそれがあります。
- 温度指示計のボタン操作は行わないでください。
正常な温度を表示しなくなります。

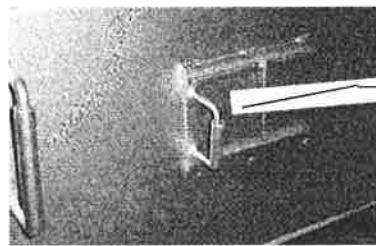
4) 消火手順

- (1) 焼却物の投入が終了し、2～3時間経過後、外気遮断投入機を静かに開けて炉内鎮火していることを確認してください。

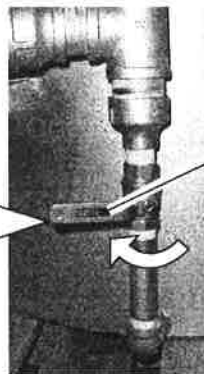
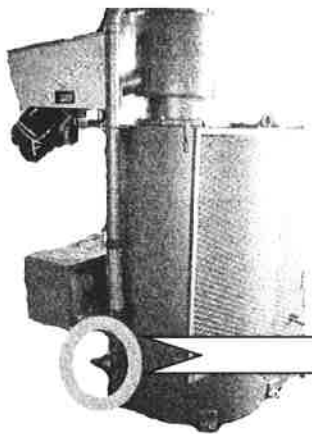
その後に、空気口及び給気バルブを全閉にしてください。



炉内焼却物の鎮火を確認してください。



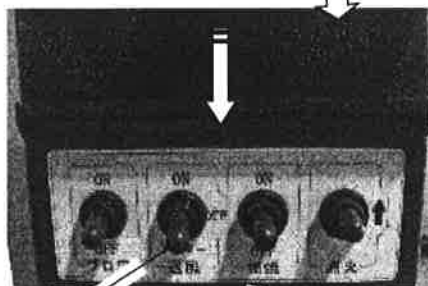
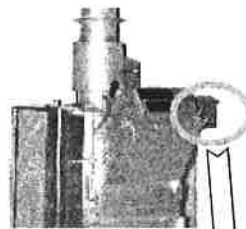
空気口を全閉にしてください。



給気バルブを全閉にしてください。

- (2) 焼却作業が終了し炉内に焼却物がなくなったことを確認したら、燃焼スイッチを『OFF』にしてください。

その後送風スイッチを『ON』から『タイマー』の位置へ下げてください。



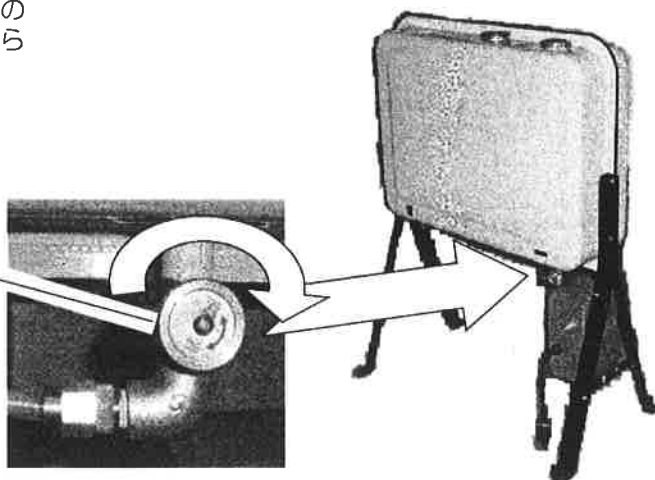
送風スイッチを『タイマー』にしてください。

燃焼スイッチを『OFF』にしてください。

- (3) バーナーの送風を停止したら送風スイッチを『OFF』にし燃料バルブを全閉にしてください。

その後、スイッチボックスの電源プラグをコンセントから抜いてください。

燃料バルブを右に回して全閉にしてください。



6. 保守・点検

- 1) 炉内に焼却灰が溜まらないように常に掃除してください。

※ 炉内にたまった焼却灰は、燃焼用空気通過の妨げとなり、十分な能力を発揮することが困難となります。
※ 灰出し扉を開け灰掻き出し棒を使い焼却灰を掻き出してください。

- 2) 燃料タンク内の燃料は常に満タンにしてください。

※ 燃料が少ない状態で保管すると燃料タンク内に水分が溜まりやすく、燃料ポンプが故障する原因となります。

⚠ 警告

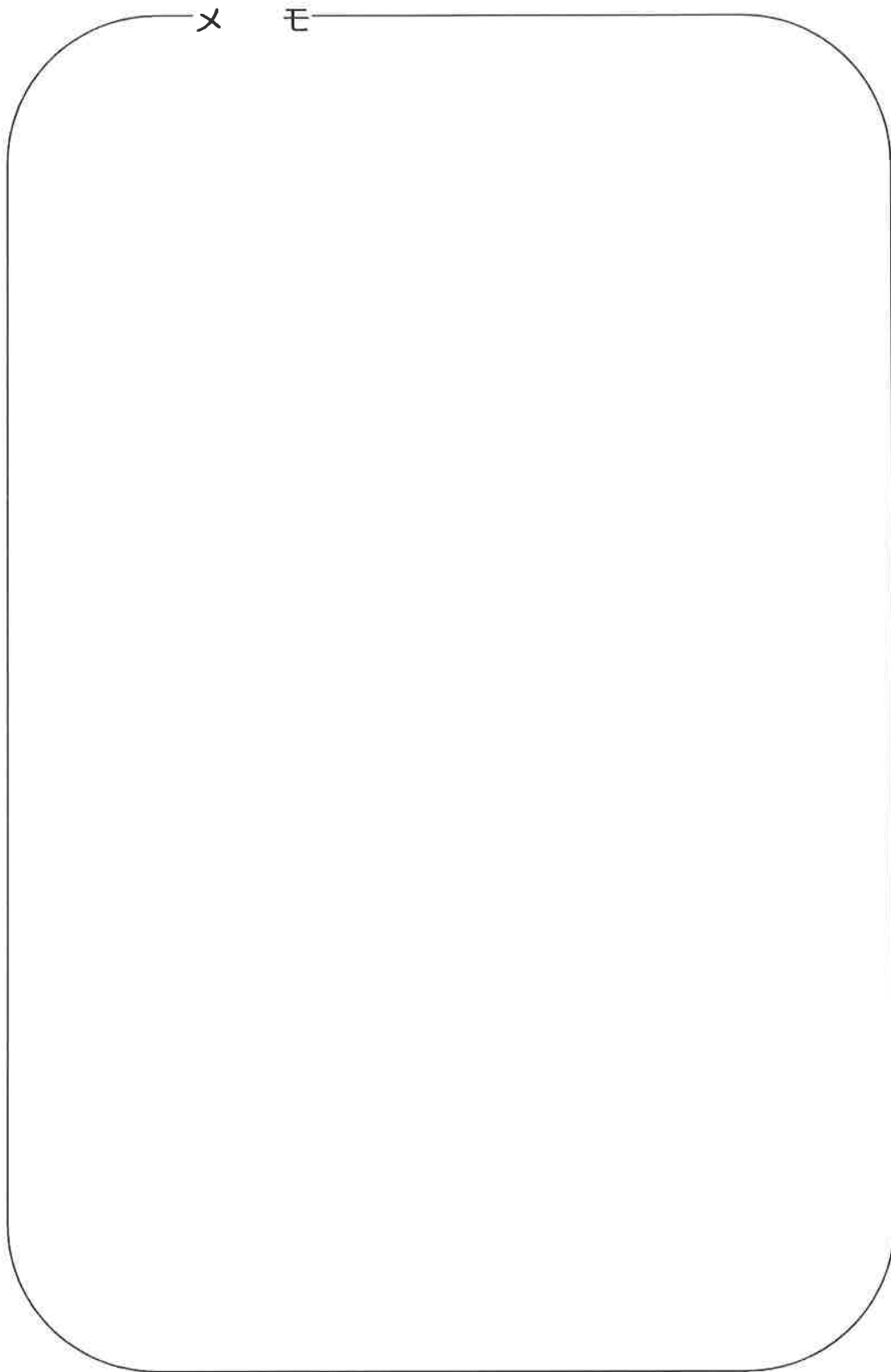
炉内及びバーナー部品のスパークバー・バーナーノズル等の点検・清掃・調整する時は、必ず電源プラグを抜いてから行ってください。
感電するおそれがあります。
安全靴・保護メガネ・手袋・マスクを使用してください。

⚠ 注意

取り出した灰は産業廃棄物として処理してください。

7.故障かなと思ったら 現象とその対応

現象	原因	対応
1. 煙突から黒煙が出る。	1) バーナーが消火している。 ① 送風、燃焼スイッチが入っていない。 ② 燃料バルブがしまっている。 ③ 燃料が入っていない。 ④ 停電時により一時的に通電が停止している。	スイッチを『ON』にする。 燃料バルブを開ける。 燃料（白灯油）を補給する。 燃焼スイッチを一度『OFF』にし、再度『ON』にする。
	2) 投入扉が開いている。	投入扉を閉める。
	3) 灰出し扉が開いている。	灰出し扉を閉める。
	4) プラスチック等を投入した。	プラスチック等を投入しない。
	5) 灰出し扉の空気口が全開になっている。	空気口の調整を行う。 （閉める方向に調整する）
2. 煙突から炎が出る。	1) 投入扉が開いている。	投入扉を閉める。
	2) 灰出し扉が開いている。	灰出し扉を閉める。
	3) 灰出し扉の空気口が全開になっている。	空気口の調整を行う。 （閉める方向に調整する）
	4) プラスチック等を投入した。	プラスチック等を投入しない。
3. 一次燃焼室の燃焼物が立ち消えしている。	1) 給気バルブ、空気口が全閉になっている。	バルブ、通気口を開け、再着火を行う。（着火時バックファイヤーに注意すること）
4. バーナーのファンが回らない。	1) 電源が入っていない。	電源をつなぐ。
	2) コンデンサーが破損している。	コンデンサーを交換する。
	3) モーターが破損している。	モーターを交換する。
5. バーナーが点火しない。	1) 電源が入っていない。	電源をつなぐ。
	2) 送風スイッチが入っていない。	送風スイッチを『ON』にする。
	3) 燃料コックが閉まっている。	燃料コックを開ける。
	4) 燃料が入っていない。	燃料（白灯油）を補給する。
	5) イグナイターが破損している。	イグナイターを交換する。
6. バーナーの炎が消えた。	1) 燃料が入っていない。	燃料（白灯油）を補給する。
	2) 停電時により一時的に通電が停止した。	燃料スイッチを一度『OFF』にし、再度『ON』にする。



回収のために下記のリョービ電動サンダを探しています

対象商品	外観色調	生産時期	製造番号
MS-350	ダークグリーン	1999年～2001年	44001～52000
		2001年～2002年	90001～103000
		2006年～2007年	178001～185000
S-801	ダークブルー	2001年	12001～15730
S-801S	ダークブルー	2000年～2001年	6001～7828
S-801M	グリーン	2004年～2005年	7001～9000

詳細は右のQRコードまたはURLからご参照ください。



<https://www.kyocera-industrialtools.co.jp/notices/2012/07/000371.html>

サービスネットワーク（営業所）

当社サービスネットワークは、右のQRコード
またはURLからご確認ください。



<https://www.kyocera-industrialtools.co.jp/support/network/>

商品のお問い合わせ窓口

ナビダイヤル **0570-666-787**

受付時間：月曜日～金曜日（国民の祝日、当社指定休日を除く）
9時から12時まで、12時50分から17時30分まで

部品ご入用、故障の場合、その他取扱い上ご不明な点があった場合には、
ご遠慮なくお買い上げの販売店にお問い合わせください。

※改良のためお断りなく仕様、外観などを変更することがあります。

発売元

京セラインダストリアルツールズ販売株式会社

本社

〒468-8512 名古屋市天白区久方1-145-1

TEL 052-806-5111 FAX 052-806-5141

<http://www.kyocera-industrialtools.co.jp>